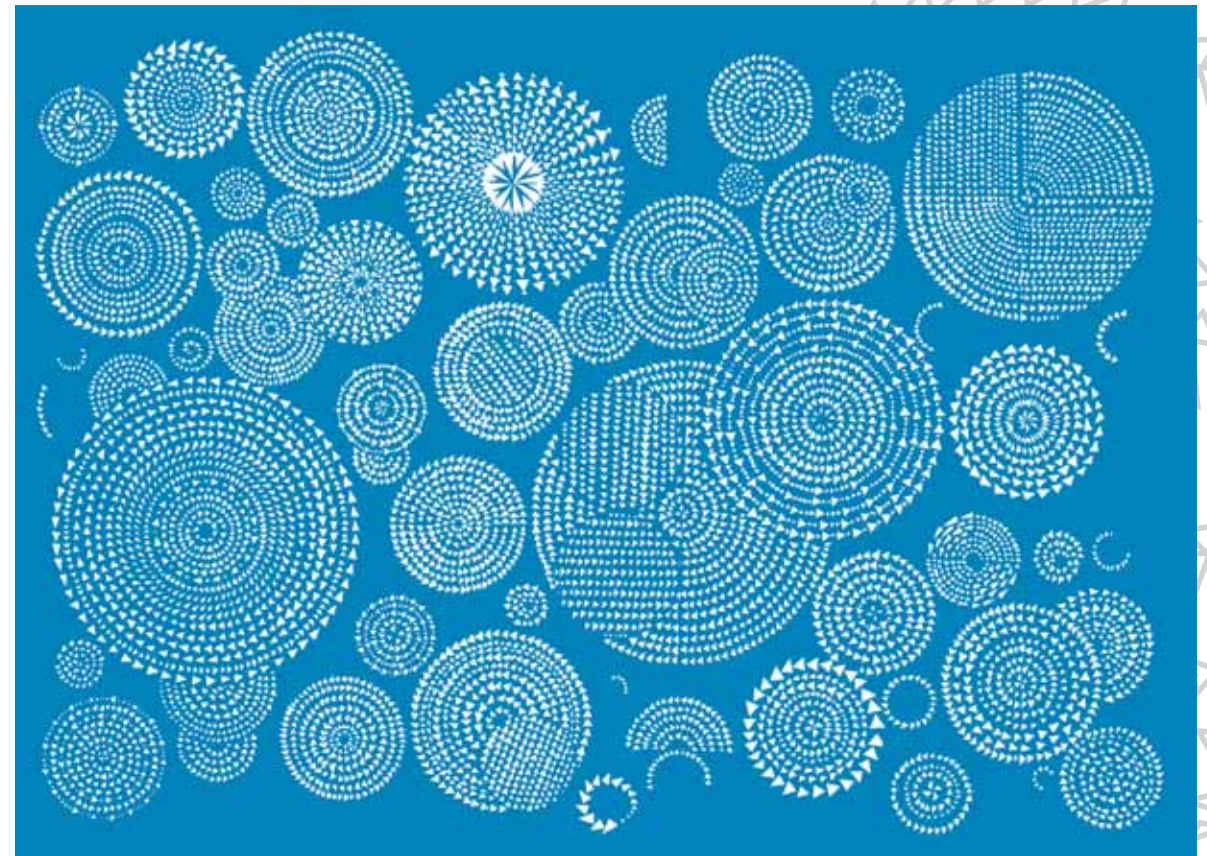
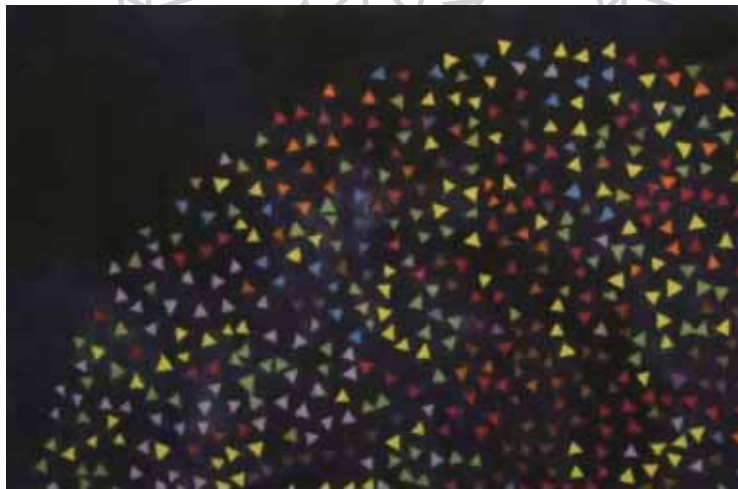
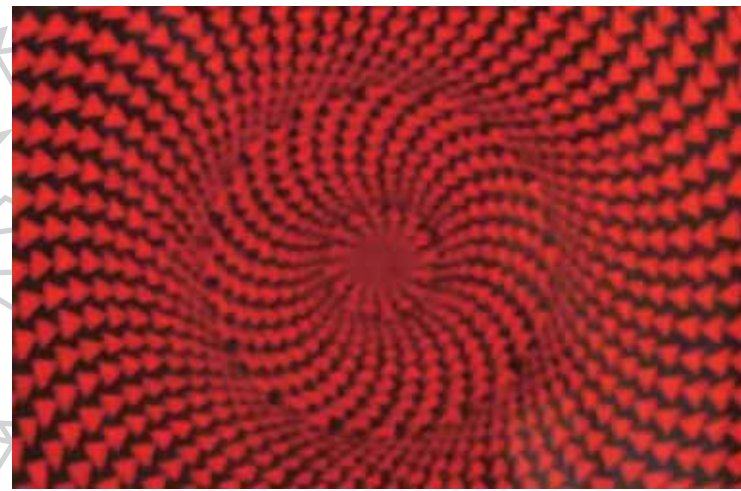
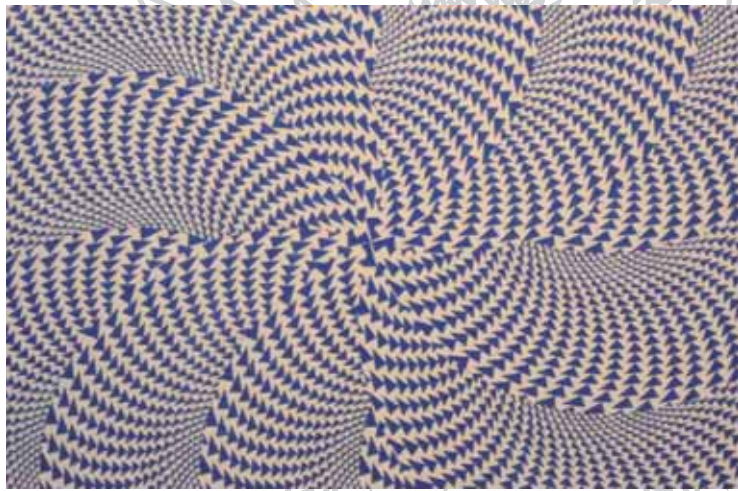


田主誠の民族学博物館

③ 三角形の可能性



2014年7月3日(木)～7月8日(火)



この展覧会は毎年、国立民族学博物館初代館長の梅棹忠夫先生の命日を含む週に行われている『田主誠の民族学博物館』です。1回目は『仮面の世界』、2回目は『心をひらう旅』と続き、3回目となる今回は『三角形の可能性』というテーマで行われました。

作品は、三角形をモチーフにした版画が18点、絵付けした陶器が19点、民族博物誌をテーマにした版画が30点展示されました。田主先生は40年以上前から三角形という図形がもつ不思議な魅力に魅了され作品を制作してこられました。その後、国立民族学博物館に勤め民族資料に接する中で、様々な文化の造形に三角形を見いだすことができたそうです。色々な文化に顔を覗かせている、そのシンプルな図形の組み合わせが、今回の作品になりました。

メインは『三角形と円』を反復・循環させ、単色で刷り仕上げたシンプルかつエネルギーを感じる作品でした。その中には三角形のもつ方向性や流動性、強さなどが表現されていました。先生の発想や表現は日々豊かに展開され、来年はさらに発展した作品を発表したいと楽しそうにお話しされていました。

先生同様、観覧客の皆様が、これからの作品の展開を楽しみにしていただけ、そんな展覧会でした。